# ながめて楽しいサクランボ盆栽

## 都会人に大もて

### [illegible]さん　特産品にと、張り切る

サクランボの産地[illegible]市では、シーズンを迎え、[illegible]をはじめ新鮮でおいしいサクランボの生出荷[illegible]、結構で"[illegible]"しようと意気込みも大きいが、同市[illegible]の栽培農家、[illegible]さんご夫妻では「ながめて、触れて楽しむサクランボの木」として、はち植えのサクランボ盆栽の出荷を始めた。アイデア[illegible]名物として大々的に売り出す[illegible]り切っている。

サクランボ盆栽の生産をしている[illegible]さんは、五、六年前に、栽培している成木の中に、ひょんなことから"盆栽"の苗木をみつけた。[illegible]作りを始めたが、二、三年[illegible]るうちに、[illegible]する事に成功した。三年目で実がつき始め、高さ三十センチから六十センチの鉢で立派な"成木"になった。せん定や、消毒など管理も手軽で、鑑賞用なので、実をつけたまま二カ月近くも家の中、窓辺でながめられ、花が咲き、果実をつける盆栽ーと本物の木を[illegible]人々は[illegible]ました。

昨年五月ごろから[illegible]の出荷へ出す計画を立てたが、[illegible]サクランボ盆栽を訪れた人たちに譲ってしまったという。今年は千鉢、五月ごろのサクランボ祭りから準備したが、すでに五、六百鉢が売れ、残り[illegible]はほとんど都会の方に[illegible]となり、これもシーズン中にほとんど売れてしまうとみている。

[illegible]残りの[illegible]らないのは、水管理と、[illegible]三年目に実をつけるようにすればよいという。

実りは一人前、サクランボ盆栽ー後ろは[illegible]さん夫婦

### 老女が鉄道自殺

十八日午後八時[illegible]ごろ、[illegible]